

【平成25年第3回市議会定例会12月会議提案理由説明】平成25年12月3日

本日、ここに平成25年第3回市議会定例会12月会議が開会されるにあたり、最近の市政の状況と提案いたしました諸議案につきまして、その大要をご説明申し上げます。

師走を迎え、今年も残すところ、あと、ひと月足らずとなりました。

この1年を振り返りますと、まず、国においては、5月に、過去最大となる92兆円規模の予算が成立し、安倍内閣の「デフレ脱却・経済再生」に向けた動きが加速いたしました。7月の参議院議員選挙においては、国会の「ねじれ」が解消され、さらに、10月には、来年4月からの消費税率の引上げが正式に決定されるなど、政治・経済、各方面にわたり、様々な出来事がありました。

スポーツ界のトップニュースは、なんと言っても、2020年夏季オリンピック・パラリンピックの「東京開催」が決定したことであり、招致メンバーが行ったプレゼンテーションに感動を覚えたことは、記憶に新しいところであります。

また、今年は、局地的な豪雨や竜巻の発生、記録的な猛暑が10月に入っても続き、台風が頻発するなど、全国各地で異常気象に見舞われ、災害への備えの大切さを改めて痛感した年でもありました。

これから、寒い冬のシーズンを迎えます。

ご承知のように本市では、6月に「白山菊酒」の普及促進条例を制定し、西のぼるさんの制作によります「千代女」をモチーフにした、ポスターなどで積極的にPRに努めております。

市民の皆さまにおかれましても、「白山菊酒で乾杯」を合言葉に、大いに盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

さて、わが国の経済情勢は、景気が緩やかに回復しつつあります。

先行きにつきましては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が現れるなか、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなるよう期待されており、消費税率の引上げに伴う、駆け込み需要も見込まれるところであります。しかしながら、海外景気の下振れが、引き続き景気を下押しするリスクとな

っております。

このような中、本市におきましては、このほど、日本を代表する医療・精密機器メーカーの「日機装株式会社」が旭工業団地に進出する運びとなりました。世界初となる新型LEDの量産化を図るため、来年6月の操業開始に向けて、準備が進められているところであります。

また、分譲中の山島工業団地においても、9月に「株式会社石川コンピュータ・センター」が進出を表明し、当該団地への立地第1号となりました。昨年、整備されたデータセンターに隣接し、新たに情報拠点施設を整備する計画であり、平成28年秋の完成を目指しております。

これらの企業誘致は、本市の立地環境や、本年6月に拡充いたしました工場立地助成金制度が高く評価され、実を結んだものであり、今後の企業誘致に向け、大きな推進力となることを、強く確信したところであります。

さて、私が市長に就任して以来、3年が経過いたしました。合併10年目を迎える平成26年度の予算編成作業については、優先課題である行財政改革の推進はもとより、地域の活性化に繋がる事業にも、「選択と集中」で取り組んでいかなければならないと考えております。白山市の未来が明るく希望に満ちたものとなるよう、今後とも、行政コストの見直しを図るとともに、市税収入の安定確保に積極的に取り組み、健全財政を堅持してまいりたい所存であります。

それでは、最近の市政の状況についてご説明申し上げます。

はじめに、防災対策についてであります。

去る11月2日、キリンビール北陸工場跡地を主会場とし、石川県防災総合訓練が開催されました。

市内全域を対象に、地震・津波を想定した、自主避難や避難所の開設・運営、ヘリコプターによる大掛かりな救助・輸送など、多種多彩な訓練が行われ、自衛隊、消防、警察など数多くの機関が連携をし、過去最大規模となる、およそ13,000人の方々に参加をいただき、迅速、かつ的確な訓練が行われたところであります。

災害を予測することは容易ではなく、怠りない準備と日頃の訓練が大切であります。

これを契機とし、さらなる防災意識の向上と防災対策の充実強化に努めてまいりたいと考えております。

次に、除雪対策についてであります。

先月20日に、白峰地域の谷峠付近で、積雪が5cmに達したため、今季初めて、除雪車が出動いたしました。

本市の今シーズンの除雪体制につきましては、主要な幹線市道やバス路線、通学路を中心に約520kmの市道除雪に対応することとしております。

また、歩道除雪につきましても、新たに10kmを加えた、延長、約75kmを除雪することとし、児童生徒をはじめとする、歩行者の安全確保を図ってまいります。

最新の気象情報を注視し、国・県等の関係機関と連携しながら、市民の生活に支障がないよう努めてまいります。市内全ての道路を除雪することは、困難であるため、町内の生活道路などについては、引き続き、地域ぐるみの対応をお願いするものであります。

また、このほど、国の「雪寒指定道路」が21年ぶりに拡大され、本市におきましても、要望どおり、新たに149kmの追加指定がなされ、総延長が306kmとなりました。除雪などの費用に対する国からの支援が充実することとなりましたので、今後、大いに活用してまいりたいと考えております。

次に、北陸新幹線（仮称）白山駅の実現に向けた取組みについてであります。

北陸新幹線金沢開業に向けた準備がいよいよ本格化してまいりました。

10月には、列車の名称が発表され、昨日からは、長野駅と黒部宇奈月温泉駅の間で、走行試験も始まったところであります。

こうした中、白山駅建設期成同盟会では、9月下旬に、白山市、能美市、野々市市、川北町の各首長及び関係の皆さま方と共に、JR西日本の本社、並びに、鉄道・運輸機構大阪支社に伺い、白山駅実現に向けた協力体制を確認したところであります。

また、3市1町を包括する「まちづくり計画」の策定につきましても、鋭意、策定を進めているところであり、需要予測を含め、計画がまとまり次第、議会の

皆さまにもお示しするとともに、国やJRなど、関係機関との協議に活用し、新駅の必要性を強く訴えてまいりたいと考えております。

次に、行財政改革の取組みについてであります。

はじめに、美川支所については、「美川すこやかセンター」の1階に移転し、11月の5日より業務を開始いたしました。

また、市役所組織の見直しについては、来年4月から、白山ろく地域の5つの支所が市民サービスセンターに移行することに伴い、この地域の道路維持管理や農業部門等を統括する「(仮称)白山ろく産業建設課」を設置することといたしました。「吉野工芸の里」の一角にある既存施設を改修し、観光情報センターも併せて整備する予定であり、行政機能の効率化と機動力のあるサービスの提供を図っていくこととしております。

次に、保育所の民営化の進捗についてであります。

かわち、鳥越の両保育所については、先ごろ、関係者の協議が整い、来年4月から、地域有志の方々に設立する「(仮称)社会福祉法人とりごえ・かわち会」による運営が決定いたしました。また、あいのき保育所につきましても、鋭意、民営化の協議が進められているところであります。

なお、保育所併設のあいのき児童センターについては、児童館運営委員会から報告のありました「児童館・児童センターの管理運営の基本方針」に基づき、単独の施設とし整備することとし、民営化を見据えた中で、近隣用地において、移転改築を進めてまいります。

次に、公共施設の指定管理についてであります。

「松任海浜温泉など5つの市民温泉」については、全国公募の結果、「株式会社トスマク・アイ」を指定管理者として選定いたしました。来年度から、早朝営業の導入や空きスペースを活かした健康教室の開催など、利用者の増加が期待されるところであります。

また、同じく、全国公募しておりました「松任文化会館」及び「鶴来総合文化会館クレイン」につきましても、全国規模で、およそ40か所の文化施設等を運営する「株式会社ケイミックス」を選定したところであります。

来年度から、そのノウハウを活かし、質の高い自主事業がプロデュースされるなど、より効率的な運営が行われるものと考えております。

そのほか、「シーサイド松任」などの宿泊施設や「瀬女コテージ」・「天領」などの観光施設についても、このほど、公募により指定管理者を選定したところであり、今12月会議に、関係の事件処分案を提出しております。

なお、来年4月から民営化となります「ふるさと保養センター清流」や「河内地場産業センター」につきましては、施設を無償貸付することとし、今般、事業者の選定を行ったところであり、3月会議に關係の条例案を提出することといたしております。

行財政改革の推進につきましては、市広報の特集号やあさがおテレビの「ようこそ！市長室」などでもお知らせしているところであり、今後とも、市民の皆さまへのより丁寧な説明を心がけていきたいと思っております。

次に、「(仮称)中央福祉館」についてであります。

地域福祉の活動拠点となります「(仮称)中央福祉館」については、来年度の業務開始に向け、工事が順調に進捗し、今月中にも外構工事に着手することとしております。施設の名称については、「白山市福祉ふれあいセンター」とし、地域全体で支える福祉の充実を図るため、指定管理者による運営を行うこととしており、今回、施設の設置に係る条例案を提出いたしております。

次に、観光事業の推進についてであります。

はじめに、「第1回白山・白川郷100kmウルトラマラソン」については、快晴のもと、白山スーパー林道を舞台に、全国から1,298名のランナーが集い、最大標高差1,200mのコースで健脚が競われました。1,000人を超える、多くのボランティアの皆さま方に協力していただき、成功裡に大会を終えることができたことから、来年度も引き続き、開催してまいりたいと考えております。

次に、「新幹線開業白山ブランドPR戦略実行プラン」の進捗についてであります。

北陸新幹線金沢開業は、本市の「観光産業」にとって、注目度を高める絶好の機会であり、このチャンスを最大限に活かす取組みを加速させております。

まず、首都圏への情報発信といたしましては、10月27日に「日本橋・京橋まつり」において、誘客のキャンペーンを展開したほか、11月2日には、東洋大学の白山祭に観光ブースを出展し、「白山ブランド」の浸透を図ったところがあります。

また、観光地の魅力づくりといたしまして、白山市観光連盟では、白山比咩神社を本市のパワースポットと位置づけ、「お神楽」を体験できるツアーを、新たに企画するなど、全国からの誘客を図っており、その一環として、11月23日と24日の両日、表参道において、「うらら白山人・どんじゃら市」を開催いたしました。地元の「食材」や「ご当地の物産」を一堂に集め、大勢の来場者に「白山の恵み」を実感していただいたところでもあります。

なお、現在、北陸鉄道石川線、「旧加賀一の宮駅」の木造駅舎を観光資源として活用する検討を行っており、平成27年春、白山比咩神社を中心に開催する予定の、北陸新幹線開業イベントに繋げていきたいと考えております。

次に、白山スーパー林道の通行料金引下げについてであります。

本市にとりまして、白山スーパー林道は、北陸新幹線開業に向け、PRすべき重要な観光資源であると考えております。

先般、本市と白川村が共同し、石川・岐阜、両県の知事に対し、通行料金の引下げを要請してまいりました。

谷本知事からは、「大幅な引下げが必要である」と明言いただいたところであり、引下げの効果を、本市の観光誘客にいち早く繋げるためにも、出来るだけ早い時期に改定がなされることを期待する次第であります。

また、今後の利用策を検討するため、10月末に石川・岐阜両県合同で「白山林道利活用促進協議会」が設立されました。年内には方針がまとめられ、愛称の募集についても協議される予定となっており、今後、広域的な連携が図られるものと期待いたしております。

次に、世界ジオパーク認定に向けた取組みについてであります。

白山手取川ジオパークの世界認定につきましては、残念ながら、9月の国内推薦が見送りとなりました。しかしながら、日本ジオパーク委員会の審査結果は、概ね

好印象であり、課題を改善した後に、再度申請することを勧められたところであり
ます。

なお、今回、新たに国内推薦を申請した3つの地域全てが「見送り」となった
ことから、世界ジオパークへのハードルが、以前にも増して高くなったと認識し
ております。

今後は、今回の指摘事項を改善するとともに、世界を見据えた活動を強化し、
再度チャレンジしていきたいと考えております。

次に、桜の名勝整備事業についてであります。

先月の初旬から「桜の名勝づくり」を本格スタートさせており、鳥越地域のバ
ードハミングや白峰温泉「御前荘」において、記念植樹を行いました。日本海か
ら白山ろくまで、標高差を活かした7つの地域に、合計600本の桜を植樹する
計画であり、いつでも桜に出会える春が演出できるよう、新たな観光名所として
整備してまいります。

また、今回、鳥越地域での記念植樹に併せ、「白山ろくテーマパーク整備利用
促進協議会」を設立いたしました。これまでの「白山ろく、花・雪・人」という
テーマに、白山手取川ジオパークの「水」という要素を加えることで、鶴来地域
の古宮公園、舟岡山公園を区域に含めた、本市を代表する広域公園となるよう、
市内各種団体の皆さまと協力しながら、テーマパークの整備と利用の促進を要望
してまいりたいと考えております。

次に、教育環境の整備、充実についてであります。

はじめに、教育施設の整備については、美川中学校の新校舎が、先月末に完成い
たしました。ガラスを使った明るい外観と、学年集会や活動発表などで、多目的に
活用できる、階段状の視聴覚室が特徴であり、冬休みの引っ越し作業の後、年明け
の8日より、新校舎での授業を開始することといたします。なお、今月の15日に
一般見学会を行い、来月21日には、関係各位をお迎えし、竣工祝賀式を執り行う
ことといたしております。

次に、美川図書館につきましては、旧美川支所庁舎跡地に移転新築の予定であり
ます。先ほども申し上げましたが、11月5日より美川支所の機能が「美川すこや

かセンター」に移行したことから、現在、旧庁舎の解体作業を進めており、2月には、新図書館の建設に着手いたします。

次に、「千代女の里俳句館」の名誉館長についてであります。

先月22日、中央文壇で活躍中の直木賞作家、安部龍太郎さんを、「千代女の里俳句館」の名誉館長に委嘱いたしました。

安部さんには、毎年、講演会や句会などで、俳句館の活動に大きく貢献いただいております、俳句にも極めて造詣の深い方です。

また、今年の直木賞受賞作品である「等伯」の執筆を最初に公言された場所が、「千代女の里俳句館」であったというご縁もあり、今回の委嘱に至ったものであります。

北陸新幹線金沢開業を控え、大きな発信力をお持ちの、安部名誉館長には、「千代女の里・白山」の全国展開に、最大限のお力添えをいただけるものと思っております。

それでは、提案いたしました諸議案について、ご説明申し上げます。

提出案件は、補正予算案7件、条例案10件、事件処分案14件の計31件であります。

はじめに、議案第144号から150号までの平成25年度補正予算案についてであります。

まず、一般会計につきましては、補正予算額4億6,400万円余となるものであります。その主なものといたしましては、総務費では、(仮称)白山ろく産業建設課等の整備費及び石川県議会議員選挙費を計上するほか、民生費では、障害者自立支援給付費及び法人民営化保育園の整備費を計上し、衛生費では、海岸漂着物の収集運搬経費を、農林水産業費では、美川漁港の航路浚渫経費を計上するものであります。また、土木費では、交通安全施設等の整備費を計上し、消防費では、白山野々市広域事務組合への負担金を、教育費では、中学校体育連盟及び文化連盟に対する補助金を、それぞれ計上いたしております。

なお、人件費につきましては、職員数の減及び国の要請を受け、本年7月より実施している給料の減額措置に伴う所要の補正を行っております。

次に、特別会計及び事業会計につきましては、一般会計同様、人件費についての補正を行うとともに、国民健康保険特別会計においては、療養給付費負担金の返還金などを計上し、介護保険特別会計については、保険料の還付金を、また、工業用水道事業会計では、水源の設計に係る経費を、それぞれ計上するものであります。

次に、議案第151号から160号までの条例案につきまして、その主なものをご説明申し上げます。

「白山市手数料条例の一部を改正する条例」につきましては、市税に関する証明手数料について、必要な改正を行うものであり、「白山市墓地公苑条例の一部を改正する条例」につきましては、蝶屋墓地公苑の拡張事業に伴い、その使用料について見直しを行うこととし、関係規定を改正するものであります。

また、「消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備に関する条例」及び「白山市水道事業給水条例等の一部を改正する条例」につきましては、公共施設の使用料及び利用料金や、水道事業、下水道事業の料金について、来年4月からの消費税率の引上げに対応するため、関係規定を改正するものであります。

次に、議案第161号から174号までの事件処分案につきまして、その主なものをご説明申し上げます。

「指定管理者の指定」につきましては、施設の指定管理者となる団体の名称及び指定の期間について、「市道路線の変更」につきましては、道路法の規定に基づき、「財産の処分」については、山島工業団地の土地を分譲することについて、それぞれ議会の議決を求めるものであります。

以上をもちまして、今期定例会12月会議に提出いたしました議案の説明は終わりますが、何卒慎重にご審議の上、適切なるご決議を賜りますようお願いいたします。